

エリア ウェブ

峡東教育事務所
 地域教育支援スタッフ
 TEL 0553-20-2737
 FAX 0553-20-2733

回覧・配布をお願いします。増す刷り配布はご自由にどうぞ。

この情報紙は山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

(お知らせ) 直接増す刷りができるように、今回よりB4サイズで配布いたします。

「愛されて育った子は親を忘れない」

坂本光男先生の講演会を終えて...

8月3日(木)に、笛吹市の八代総合会館で子育て講演会が行われました。講師の坂本先生の説得力のある話に参加者はぐいぐい引き込まれていきました。ユーモアも交えながら、楽しく充実した講演会でした。

講演は、主に次のような内容でした。

子育ての基本は「愛、自立、命」。子育てに偏りがないように。誕生日には「あなたを産んでよかったよ。」「育てて良かった。」と子どもに伝える。柱に成長の跡を残し、家族で喜び合う。

成績で人の値打ちは計れない。「みんなの役に立つ」人づくりが大切。

反抗期は「自立期」。押さえつけるのではなく、「力を貸してくれ」と頼む。

「自分の子を抱きしめる」「毎晩読み聞かせをする」と子どもへの愛情が深まる。



《参加された方の感想・意見》

一方的に聞いてばかりの講演会ではなく、話し合いをしたり、ゲームをしたりと、体験しながら飽きることのない楽しいものでした。子どもにも言葉だけでなく、ふれあいを大切にしていきたい。

子どもをそのまま認めてあげることが本当に大切なことだと改めて感じました。4人の子育ての真っ最中ですが、まだ子どもを伸ばしてあげられるというエネルギーを得た感じがします。そして、自分自身にも自信を持ち、がんばっていきたいと思いました。

「愛、自立、命」についてたいへん分かりやすい話でした。ほめることも大切だが、それ以上に励ますということが大切だと言うことを学べて良かったです。

小6の娘が反抗期で、言葉遣いも悪い、片づけもしない。こちらストレスがたまります。お互いにどんなことをすると良いか導いて頂きたい。

息子(10歳)はすぐ怒って、物に当たったり、泣いたりします。もっと話し合いやスキンシップをとりたいと思いました。

大変素晴らしいお話を伺うことが出来て本当に良かったです。この感動を少しでも多くの人に伝えていけるように努力していきます。まずもって自分が元気がなくてはいけないと思います。

心に染み渡る良い話だった。難しいことではなく、出来ることを愛情をもって行うことの大切さを実感した。

「子どもは親の鏡」というけれど…

「親」という漢字は、『木の上に立って見る』と書きます。遠くから子どもを眺めながら子育てをする。そんな意味からできた漢字だと思っていました。でも漢和大辞典（学研）によると、「ナイフで身を切るように身近に接して見ていること」とあります。子どもの思いを一番身近に感じて見ている人物、それが親と言うことなのでしょう。

でも、見ているのは親だけではありません。実は、子どもも親のやっていることをじっと見て、多くのことを吸収しているのです。困ったことに正しいことだけでなく、マネをしてほしくないことまでマネをします。



～親子でいっしょに努力することの大切さ～

以前、保護者の方から次のようなことを言われたことがあります。

「先生、聞いてください。うちの子は遊び道具を出したら出しっぱなし。本当にだらしないんですよ。何とか言ってください。」

あまり何回も言われるので、本人を呼んで少し話をしました。するとその子が、

「先生、うちのお母さんだって、流し台は洗い物がいっぱい、自分の洋服だって散らかしっぱなしなんだよ。」と言うのです。

私は、言葉に困ってしまいました。

「お母さんもきっと忙しいんだよ。親子で一緒に片づけるように努力していくといいね。」と、苦しい返事をしたことを覚えています。

しかし、よく考えてみると、もしこのお母さんが「もっとしっかりしなさい！」と子どもを怒ったとしたらどうでしょう。子どもは、『お母さんだって、だらしがいいじゃないか。』と反発するのは当然ですね。

では、どうしたらいいのでしょうか？

「お母さんが直さないと子どもを叱れない」これではいつまでたっても注意できません。「自分が直さないのに、子どもだけを責める」これも効果がないでしょう。「お母さんも直すから一緒に協力して片づけようね」と、子どもも親も同じ姿勢で、少しずつ努力していくことが、親子の関係を保ちながら子どもを良くするコツだと思います。

～身近な大人の一人一人が良き手本に～

最近のテレビや新聞記事を見て心配になることがあります。それは、

『今の日本は潔さがなくなってしまったのか』ということです。

「知りませんでした」「まったく身に覚えのないことです」「の単独の行動です」「下請けの業者の責任です」「そんなつもりはなかったのです」等々。

こんな言葉が、新聞・テレビなどで毎日のように聞かれるようになってきました。子どもたちは、それらを見聞きする中で何を感じているのでしょうか。何を学んでいるのでしょ

うか。「学ぶ」の語源は「まねる」から来ているという説があります。確かに、学びの最初は「まねる」ことから始まると思います。

現代社会の無責任さを、子どもたちがまねていったら恐ろしいことになります。

子どもたちにとって、最も身近で影響の大きいのが、親であり、学校の教師であり、地域の大人です。我々一人一人の大人が責任を持って行動し、子どもたちにとって良い手本になることが大切だと思うのです。

なぜなら、将来の社会を創っていくのは、「今の子どもたち」だからです。

「子育て」、一人で悩んでいませんか？

乳幼児の子育ては、「言葉が通じない」「感情をうまくコントロールできない」という意味では、青少年の教育よりも大変な面を持つのかもかもしれません。親が一人で悩み、不安定になると、子どもの気持ちも不安定になります。そんなとき、早めに子育てについて相談したり、同じ子育ての仲間に入ったりすることで、気持ちが少し楽になることがあります。

でも、『いつ、どこで、どんなことをしているのか分からない』。そう感じている方も多いのではないのでしょうか。今回は、そのような子育て支援活動の場を取材しました。どの施設も、お母さん方の明るい笑い声や、子どもたちの楽しそうに遊んでいる姿が印象的でした。

境川児童館

笛吹市境川町小黒坂 1652 (055-266-8077)
7月18日(火)「親子で遊ぼう」10:00~11:30

毎月1回、遊びを通して親子でコミュニケーションを深めたり、子育ての情報交換をしたりする活動をしています。この日も



《親子で楽しく体操》

雨天にもかかわらず、15組ほどの親子がゲームや工作、パネルシアター、体操などをして楽しい半日を過ごしました。

こすもす館(たんぽぽ保育園隣り)

甲州市塩山上於曾 442-5 (0553-33-8880)
活動日；月・水・木・金 10:00~12:00

昨年は60件もの相談があったそうです。トイレトレーニング、言葉、離乳食、身体の発達から家族の相談までいろいろな相談を受けたそうです。《子育ての話し合い?》



この日は夏休みも終わりかけの頃でしたが、大勢のお母さん、子どもさんが館を訪れていました。どのお母さん方も和やかに話をしていました。

子育て支援ランド「ゆうゆうゆう」

笛吹市石和町四日市場 1401-7(055-263-4555)
活動日；月・水・木・金 10:00~16:00

この日は7組ほどの親子が楽しそうに参加されていました。笛吹市内の方はもちろん、県外から来られた方もいるそうです。《いろいろな遊具で遊んで》



多いときは一日に親子で50名ほどの方が参加されることもあるそうです。

ほとんどの方が個人で申し込まれて、この活動の中で親しくなられるそうです。でも皆さん、昔からの知り合いのように、大変楽しそうに話していました。

つどいの広場「たち」

山梨市上神内川 1348 (0553-23-1801)
活動日；月・水・金 10:00~15:00

この日は、小学生4名と中学生1名・高校生1名がボランティアで参加していました。参加の理由を聞くと



「子どもが好きだから」 《お兄さん、お姉さんと》
「保育に関心がある」「将来保育士になりたい」としっかりした返事が返ってきました。

お母さん方も、この広場に参加して本当に良かったと話されていました。様々な年齢の方が、仲良くとても明るい雰囲気でも活動していました。

なぜ「子育て支援の場」が必要なのか？

お母さん方や、職員の方から次のようなお話を聞くことができました。

最初、申し込むときは迷いましたが、勇気を出して電話して良かったと思います。毎日、子どもと二人きりでいると、だんだんイライラする時があります。何を相談するわけでもないけど、他のお母さん方ととりとめのない話をするだけで救われます。今回は用事で行けなくても、「次は行こう」と思うだけで、気持ちが楽になります。自分の子どもしか見ていないと不安になることも、他のお子さん比べると「みんな同じなんだ」とほっとすることがあります。子どもたち同士の中で、仲良く遊んだり、時にはケンカもしたりします。でもそうした日常の中で、こどもが成長している様子が分かり、嬉しくなります。

広げよう スクールガードの輪

4月20日(木)に今年度のスクールガード・リーダーが委嘱され、6月8日(木)には峡東地域スクールガード(学校安全ボランティア)養成講習会が、山梨市民会館で開催されました。また、「子ども100番の家」やPTAによる活動だけでなく、企業や企業組合、郵便局などでも、登下校の見守りを始める動きが出ています。このような盛り上がりのなか、山梨市では「こども見守り隊」が各地区に結成され、笛吹市や甲州市でも、見守り活動の輪が広がっています。

スクールガードなどというと難しく聞こえますが、要は、大人が地域の子供達に関心を持ち、私たちの街が、私たちの子供の頃のような、安心して「道草」のできるような地域になればいいのだと思います。夏休みも、もうすぐ終わり。子供達は学校に戻ります。登下校の途中や放課後などに、子供にちょっと注意を払っていただきたいと思います。

そして、これらの方々の善意の輪をさらに広げ、子供達を地域全体で守り育てていきたいものです。

なお、各地のスクールガード・リーダーは次の方々です。



長田明雄さん
甲州市



林 正文さん
山梨市



小澤良登さん
山梨市



武藤義仁さん
山梨市



鶴田幸男さん
笛吹市

声かけて 声かけられて 広がる輪 !!
「ありがとう」で あなたも私も 明るい笑顔